獨協医科大学 埼玉医療センター
Dokkyo Medical University Saitama Medical Center

地域連携広報誌

まもるがかり

第6号
2023年5月発行

特集 チームで院内の感染症蔓延を防ぐ！

『感染制御部』の活動

いると安心！かかりつけ医

お近くのクリニックや診療所と
獨協医科大学埼玉医療センターとの連携

部門紹介

総合患者支援センター

各部門・相談窓口のご紹介

特　集

チームで院内の感染症蔓延を防ぐ！

『感染制御部』の活動

当院には新型コロナウイルスをはじめ、さまざまな感染症から患者さんや医療従事者を守っている部署があります。それが感染制御部です。今回は、感染制御部の役割や取り組みについてスタッフの皆さんに伺いました。

YouTube　YouTubeでは今回のインタビュー動画を配信中！

チーム医療で、感染症のリスクから病院全体を守る

感染制御部は、院内感染を抑えて患者さんの命や病院の安全を守る部署です。感染対策の知識を有する医師や看護師、薬剤師、臨床検査技師が集まり、感染症が発生した時の対応や危機管理体制の構築、薬剤耐性菌による院内感染の制御、職員への教育などを行っています。

医 師

教授、感染症専門医・指導医、ICD部長　**春木 宏介**

各分野の専門知識を持ち寄り、より確かな感染対策を

感染制御部の使命は、院内感染を可能な限り減らすことです。多面的な感染対策ができるよう、院内感染制御チーム（ICT）と、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の２チーム体制で業務にあたっています。ICTは院内の感染動向の早期把握や、院内環境の整備・指導を行うチームです。一方、ASTは抗菌薬の適正な量、時期、タイミングでの使用を管理・支援するチーム。それぞれのチームに医師や看護師、薬剤師、臨床検査技師が属し、活動に取り組んでいます。各職種の専門知識や経験を持ち寄ることで、１人の視点だけでは見えなかった部分も補える。そして、皆で相談しながらより良い方向に方針を変えていけるのは、チーム医療の大きな意義だと考えています。今後は、患者さんがより安心して治療に専念できるよう、現在の体制をさらに強化し、新人教育にも力を入れたいと考えています。

医 師

講師、感染症専門医・指導医、ICD、抗菌化学療法指導医
本田 なつ絵

主治医とともに、患者さんにとって最善の治療法を見つける

各診療科から感染症に関する相談を受け、治療方針の提案を行っています。医師として患者さんの症状を把握したうえで、治療薬を決めることもあります。ここで大切にしているのは、主治医と患者さんの信頼関係を保ちつつ、患者さんの回復に繋がるお手伝いをすることです。またHIV、肺外結核や輸入感染症などの外来診療も行っています。感染症の治療においても、まずは患者さんの不安を取り除くよう努めています。さらに、付属の越谷クリニックにおける渡航外来の診療も私の役割です。受診者の中には、海外での子育てなどの生活に不安を感じている方が少なくありません。ワクチン接種や予防薬の処方だけではなく、私自身の経験を踏まえながら海外で子育てするイメージがわくような診療を心がけています。

感染対策が適切に行われているか、院内ラウンドで点検を実施

高カロリー輸液（TPN）を無菌的に調製

検体を採取して培養し、細菌の有無を調べる

看護師

感染管理認定看護師（ICN）
岡村 彰子

効果的な感染対策のため、病棟の状況をチェック

院内における感染対策の実施状況の確認や、現場での指導などを行っています。具体的には、病室や廊下の環境は適切か、手指衛生のタイミングは適切か、などをチェックしながら院内を回るイメージです。不適切な部分を見つけたり、現場で相談を受けたりした場合は適宜アドバイスしています。常に心がけているのが、相手の立場に立ったコミュニケーションです。看護師はチームの中でも現場に行く機会が多い職種。こころよく指導を受け入れてもらうためにも、常に「相手はどう思うか？」を意識して接するよう努めています。やりがいを感じるのは「こうすると良いですよ」と指導し、後でその成果が出たと知った時です。コロナ禍で手指消毒に関心を持つ方が増えたので、地域の皆さんにも日常生活の中でできる感染対策を伝えていけたらと思っています。

薬剤師

副部長、感染制御専門薬剤師（ICPH）、抗菌化学療法認定薬剤師（CIDCP）
鈴木 伸志

患者さんに合う抗菌薬を提案し、治療を後押し

医師から相談を受け、患者さんに合う抗菌薬を選択して治療に役立ててもらうのが主な役割です。抗菌薬を適切に使ってもらうため、医師に対してより効果的な使い方を提案することもあります。直接患者さんとお話しする機会はあまりありませんが、医師や看護師、病棟担当の薬剤師と連携を取りながら、患者さんの治療に携わっています。喜びを感じるのは、抗菌薬による治療を終えた患者さんが回復し、退院していく様子を確認した時です。薬剤師にはもうひとつ、患者さんと医師との橋渡しをするという役割もあります。「これは先生に言いにくいな」と思うようなことでも、薬剤師になら話しやすいと言ってくださる方が多いのです。感染制御部の薬剤師に限らず、不安なことがある場合は遠慮せず伝えていただけたらと思います。

臨床検査技師

副主任、感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）
矢澤 淳子

薬剤耐性菌や重要な微生物を最初に発見

主に薬剤耐性菌についての情報を共有したり、重要な微生物が検出された時の報告をしたりしています。まずは「こういう菌が検出されました」と共有するところからスタート。そして医師や看護師、薬剤師にその菌の検証を託し、治療に繋げてもらいます。検査結果だけを見ると「菌が出た・出ない」で終わってしまいますが、チームメンバーと連携を取ることで、菌が検出された場所の消毒状況や患者さんの抗菌薬による治療歴などが分かるようになります。検体の数は非常に膨大です。その中で至急報告する必要がある菌と、そうでない菌を見極めることが院内感染を防ぐためにとても大切。それには臨床検査技師としての豊富な知識と経験が必要になります。耐性菌についての情報を日々アップデートしながら、チームの繋がりもより一層強めていきたいです。

いると安心！かかりつけ医

お近くのクリニックや診療所と獨協医科大学埼玉医療センターとの連携

“かかりつけ医”は、日頃の診療や健康管理をしてくれる身近なお医者さんのことです。ちょっとした症状が気になるときや、健康診断で異常な数値が出たときなどに大変頼りになる存在です。獨協医科大学埼玉医療センターは、かかりつけ医と連携しながら、地域住民の皆さんの健康をお守りしています。それぞれの特長や役割を理解して、上手に活用しましょう。

かかりつけ医（クリニックや診療所など）

あなたのことを良く知っていて、いざという時により大きな病院を紹介してくれます。日ごろから気軽に相談できる“かかりつけ医”を持つことが安心につながります。

患者さん

獨協医科大学埼玉医療センター

治療が難しい病気でも、高い技術を持った専門医が診療にあたります。まずは、かかりつけ医から紹介状を発行してもらい、診察の予約を取ってください。

それぞれの特長を理解しよう

通常診療

特　長

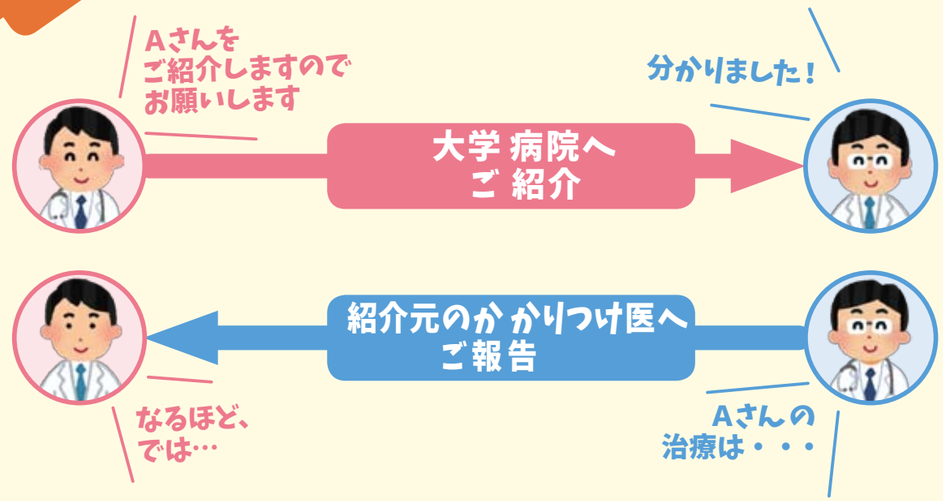
じっくり診察してくれる。
日常の健康管理についてアドバイスをくれる。
検査・手術などが必要なとき、適切な病院を紹介してくれる。

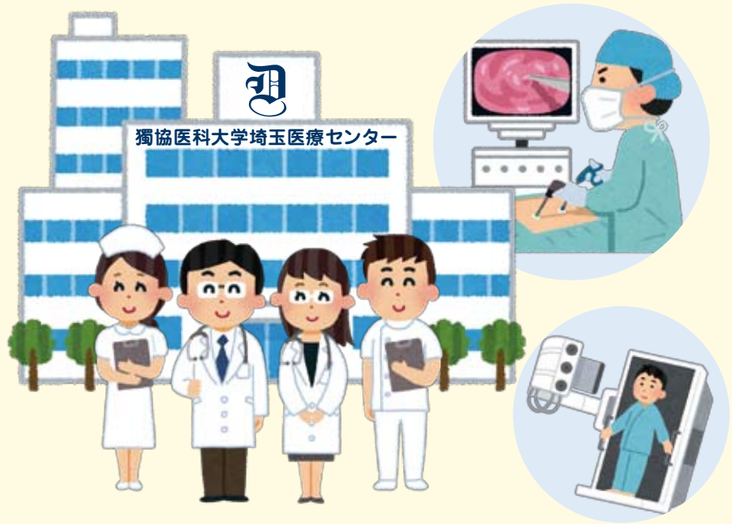
専門的な検査、手術、治療

特　長

重篤な患者さんに対して検査、手術を提供してくれる。
かかりつけ医と連携して、より良い治療方針を提案してくれる。

かかりつけ医に受診





部門紹介

総合患者支援センター

各部門・相談窓口のご紹介

総合患者支援センター長
総合診療科 教授
齋藤 登

総合患者支援センターでは、医療連携部門、医療福祉相談部門、入退院支援部門、在宅医療部門及びクリニカルパス推進部門を設置しており、当院と地域医療機関との密接な連携、患者さんやご家族からの相談に適切に応じられる体制の確保、患者サービスの充実と推進並びに患者さんのかかえる様々な問題の解決を医療・保健・福祉の有機的連携により進めるため、相手の立場に立ってその機能を果たしています。

各部門・相談窓口の紹介

総合患者支援センターでは、以下のような部門、相談窓口を設け、地域医療機関・施設との連携や患者さんやご家族のさまざまなご相談に対応しています。

医療福祉相談部門

専門の医療ソーシャルワーカーが心理的・社会的な問題に対する解決・調整援助、社会復帰に対する援助、経済問題に対する解決・調整援助等の相談を受け付けております。

医療連携部門

近隣の医療機関（かかりつけ医）からご紹介いただいた患者さんに対し、診療予約取得のお手伝い、その診療結果を紹介元に報告するといった業務を行っています。

入退院支援部門

入院患者さんの情報を入院前に把握し、問題解決や退院後の支援に向けて早期に着手し、退院調整及び在宅生活をサポートいたします。

在宅医療部門

入院患者さんや通院患者さんを対象に、自宅で治療が受けられるように。訪問診療や訪問看護においてサポートいたします。

クリニカルパス推進部門

クリニカルパス（病気ごとに治療や検査、看護ケアなどの内容及び診療計画を一覧できる形式にまとめたもの）を用いた診療をお受けになるための様々な運用支援を行います。

がん相談支援センター

総合がん診療センターと連携し、がん患者さんの療養上の心理・社会・経済的な相談をお受けします。

難病相談窓口

難病患者さんの療養上の心理・社会・経済的な相談、地域機関からの受診相談をお受けします。

脳卒中相談窓口

当院にかかりつけの脳卒中患者さんの心理・社会・経済的な相談、地域機関からの受診相談をお受けします。

患者相談窓口

どこに相談していいか分からない内容や当院・医療従事者に対するご相談、ご意見を伺います。

PFMシステム

当院では入退院支援部門の中に患者支援窓口を設け、PFM システムを導入しております。PFM とは（Patient Flow Management）の略です。入院前から患者さんが安心して医療を受けられるよう、一人ひとりの状況を身体的、社会的、精神的背景からしっかりと把握し、入退院に関連する多職種が連携して入院中はもちろん、退院後も含めた一貫した支援を目指しています。

受診の流れ

初めて当センターを受診される方は、下記の流れをご確認のうえ、ご予約をお取りください。

① FAX もしくは電話にて診療予約を受け付け

地域の医療機関から診療予約の連絡を受ける。

※医療機関からではなく、患者さん本人もしくはご家族からの予約連絡も受け付けています。その場合はお手元に紹介状（開封不可）をご準備のうえ、以下の連絡先にお電話ください。

②診療予約票を発行

紹介元の医療機関に診療予約票を FAX しますのでお受け取り下さい。

※患者さん本人もしくはご家族からの予約の場合は、自宅にご郵送します。

③診療予約日に受診

紹介状、保険証、診療予約票をご持参ください。

※当センター受診券（カード）をお持ちの方は一緒にご持参ください。

＜お願い＞

まず地域の医療機関を受診し、専門的な診療が必要と判断され、当センターの受診を紹介されることが一般的な流れです。当センターでの診療を終え、いったん地域の医療機関に戻られた後、改めて紹介されて受診する場合にも同様に、地域の医療機関で当センター宛の紹介状をもらってください。予約を取る際は当センター宛の紹介状をお手元にご用意ください。

連絡先　総合患者支援センター医療連携部門のご案内

業務時間（病院休診日を除く）	平日、土曜日（第３週を除く） 午前９時 00 分～午後５時 00 分	連絡先	TEL　048-965-1147（直通）

※紹介状をお手元にご準備の上、ご連絡をお願いします。

YouTubeでインタビューを見てみよう！

今号の特集、『「感染制御部」の活動』ではスタッフの皆さんにインタビューしました。YouTube の動画で見ることができますので、ぜひご覧ください。

右記 QR コードを読み込んでご視聴ください。
配信は予告なく終了となる場合がございます。

獨協医科大学埼玉医療センター 地域連携広報誌
まもるがかり

発行　獨協医科大学埼玉医療センター
〒343-8555　埼玉県越谷市南越谷 2-1-50
TEL：048-965-1111（代）　048-965-1147（総合患者支援センター）
https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-s/
制作　株式会社メディア・プラン　http://www.media-plan-tokyo.co.jp/

理念

常に研鑽し患者の信頼にこたえる

病院概要

開設年月 昭和59年6月

許可病床数 928床

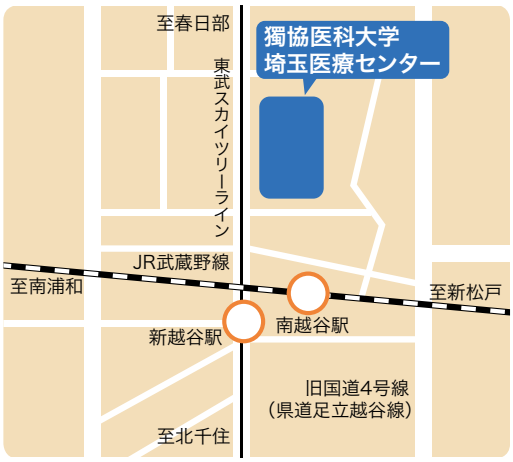
診療科名 糖尿病内分泌・血液内科、呼吸器・アレルギー内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、小児科、放射線科、総合診療科、外科、乳腺科、整形外科、心臓血管外科、呼吸器外科、産科婦人科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、脳神経外科、泌尿器科、形成外科、救急医療科、麻酔科、集中治療科、こころの診療科、皮膚科、リハビリテーション科、小児疾患外科治療センター

診療受付時間 午前8時30分～11時30分
（但し、腎臓内科、脳神経内科、小児科、産科婦人科については午前8時30分～10時30分）

休診日 日曜、祝日、第3土曜日、開学記念日（4月23日）、年末年始（12月29日～1月3日）

アクセス

東武スカイツリーライン　新越谷駅下車徒歩3分
ＪＲ武蔵野線　南越谷駅下車徒歩3分



獨協医科大学 埼玉医療センター
Dokkyo Medical University Saitama Medical Center
〒343-8555 埼玉県越谷市南越谷 2-1-50　TEL：048-965-1111（代）

獨協医科大学埼玉医療センター 地域連携広報誌 まもるがかり 第6号 2023年5月発行
発行 獨協医科大学埼玉医療センター 総合患者支援センター